- B17** アラトツツガムシより分離した *Orientia tsutsugamushi* の性状解析
 浦上 弘[○]、大久保耕嗣、江夏照晋、多村 憲（新潟薬大）、三角仁子（女子栄養大）、
 監物 実、関川弘雄（新潟大）、高橋 守（川越総合高）
*Characterization of Orientia tsutsugamushi isolated from Leptotrombidium
 intermedium.*
 Urakami H., Okubo K., Enatsu T., Tamura, A., Misumi H. Kenmotsu M.,
 Sekikawa H., Takahashi, M.

新潟県川口町で未吸着幼虫をツルグレン装置で採集した。これをマウスに吸着、満腹させ、
 種分類を正確に行った後、アラト44匹、102匹、フトゲ22匹の3群に分け免疫抑制マウス
 に接種した。その結果、アラトより *Orientia tsutsugamushi* (Ot) 1株の分離に成功した。単
 クローン抗体により分離株の抗原型はKarp型と同定された。このアラト由来株の型特異抗
 原蛋白遺伝子の塩基配列は新潟県の患者分離1株と100%相同であり、新潟、徳島県のKarp
 型患者分離4株とは95.4%、また標準Karp株とは94.5%相同であることが判明した。この結
 果は、京都府岩滝町でアラトの幼虫にOtの存在を認めた結果と合わせ、アラトがOtを保有
 し、ベクターとなり得る可能性を示唆するものとする。

- B18** アラトツツガムシからのツツガムシ病リケッチアの検出と生活史
 三角仁子[○]（女子栄養大）・高橋 守（川越総合高）・浦上 弘・大久保耕嗣
 ・多村 憲（新潟薬科大）・高橋健一（北海道衛研）・中嶋智子（京都府
 保健環境研）
*Detection of Orientia tsutsugamushi from Leptotrombidium intermedium and it's
 life cycle.*
 Misumi H., Takahashi M., Urakami H., Okubo K., Tamura M., Takahashi K.
 and Nakajima S.

日本の恙虫病媒介種としては、これまでアカ、タテ、フトゲの3種が知られてい
 る。しかしこれらが生息せず、アラトが高密度に分布する場所で野鼠血清中のOt抗
 体価の高い場所のあることが見出された。そのためアラトがOtを保有しているの
 はないかと考え、北海道江別市、新潟県川口町、京都府岩滝町で捕獲した野鼠寄生
 および土壌中のアラトからOtの検出と分離を試みた。その結果、川口町(1 / 146)
 と岩滝町(1 / 455)のアラトからOtが検出されたので、本種の野外での生活史と併
 せてその概要を報告する。